

令和3年2月17日

# 南の風 For Junior33

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

32号に書きましたが、ドライブする時に大事なことは、ヘルプサイドやギャップ（ずれやスペース）を見ておくことです。

選手の皆さんは、「リングを見てプレーしなさい。」と言われることがあると思います。間違いではないのですが、ドライブでペイントを攻める時に最も注意すべきことは、中の状態（ペイント内のディフェンスの位置）を把握することです。

それによって、ストップしてプルアップのジャンプショットするのか、ペースを変えたドリブルを再続行するのか、パスするのかが決まります。この状況判断を練習の中で意識してゲームでできるようにすることが大切です。簡単ではないのですがミニバスや中学校の頃から、このドリブルからのトリプルシュートに取り組んでほしいと思います。もう一度まとめます。

**強く高さが一定のドリブルでペイントに進入することが前提となります。**

- ①自分に付いているディフェンスはかわすことができ、ヘルプが遅れたり、ゴール下で待ち構えたりしている場合は、ストップしてプルアップのジャンプショットを打つ。
- ②自分に付いているディフェンスはかわすことができ、ヘルプがクローズアウトして来た場合は、ドリブルをポケットの位置に持っていき、止まると見せかけて（この時はリングをしっかりルックすることが大事）、ドリブルを再続行してシュートに行く。
- ③自分に付いているディフェンスはかわすことができ、ヘルプ来た時に外に空いている味方がいた場合は、ドリブルを止めると同時にシュートポジションを取り、リングをルックしてシュート動作を入れ、ヘルプディフェンスの手をハンズアップさせ、空いているところからキックアウトパスする。

全国の多くのU15世代の選手が取り組んでいるプレーです。挑戦してみてください！！

次です。

気になっていることがあります。ドリブルスキルを使う場面です。ウインターカップだけでなく、ミニバスや中学校のゲームでも見かける光景です。

現在、ミニバスから中学、高校までハンドリングやドリブルワークのスキルは、格段に進化しています。ボールを見ないでビハンド、レッグスルーやさらに進化して、2レッグスルーからドロップゴー（必要に応じて2度のレッグスルー）など難しいスキルも難くこなすミニバスの選手も出てきました。

ただゲームの中で、必要のないところでこれらのドリブルワークを使ったり、ディフェンスの状況を見ずに自分勝手に仕掛けたりして、ボールを失うあるいはミスにつながるケースが結構あります。

ここではクロスオーバードリブルを取り上げます。

選手の皆さんは、クロスオーバードリブルをどういう場面で、どのように使っていますか？まず自分で考えて、ポイントをチェックして見ましょう。相手は、最強クラスのディフェンスだとしてシミュレーションしてください。次号に続きます。